

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201039		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街袖師		
所在地	静岡市清水区袖師141-1		
自己評価作成日	平成27年12月22日	評価結果市町村受理日	平成28年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&IjigovoCd=2294201039-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとり1人が、自分の家だと思えるように、家庭的雰囲気の中で安心して暮らせるよう、ご利用者様のニーズにあわせ、必要なサービスが提供できるよう職員全員で意識し行っています。出来るだけ残存機能を生かしていただけるよう、「できること」支援が必要な事を職員が情報交換し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年1月に運営を任された管理者は「此処に事業所があると知ってもらいたい」との思いを抱き、中学校と幼稚園へも挨拶に向かっています。その取組みから来期は中学校の防災訓練への参画や生徒の職業体験訪問があることがほほ見えてきました。また「(なんでもいいので)何かを続けてもらいたい」を奨励し、例えば匂い袋づくりに夢中な人は他の利用者にも指南をはじめ、また職員が「おもてなしの心」とプリント包装して近隣にPR配布していることから「いくつ売れた？」との張り合いも生まれています。民生委員の、「いつ来ても明るいね」「ここにいつか入るから」との言葉が励みであり、外部者の評価も日進月歩で高まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気で明るく笑顔ですぞす」という言葉を実践できるようスタッフ全員で考え取り組んでいます	「利用者は人をよく見ているので…」と日頃から職員に示唆しているため、訪れるたびに民生委員が言う「いつ来ても明るくていいね」との言葉は職員の励みであり、また外部者の評価が高まっていることが観えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃に参加しています	昨年から引き続き節分の子ども会行事の豆まきに加わることが予定され、また「事業所があることを知ってもらいたい」との想いから中学校と幼稚園へ管理者が挨拶に出向き、今後のつながりにも期待が膨らんでいます。	中学校の避難訓練への参画、生徒のボランティアや職業体験と来期は新企画が目白押しですので、年間計画に位置付け確実な実現を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者の状況やサービス内容を話あっています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催しています 利用者様の利用状況・行事の報告・サービス内容等の報告をし 意見をサービス向上に活かしています	「わたしもいつか此処にはいるので」との民生委員にはハワイアン、銭太鼓、紙芝居、楽器演奏、漫談と多種多様のボランティアを紹介してもらえ、隔月開催の運営推進会議の恩恵を大いに享受しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が1ヶ月に1度来て利用者様の声を聴いてくださいます	運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席がありますが、市役所担当部署の参加はここ1年はありません。数年前から担当くださっている介護相談員には気持ちを吐露する利用者もあるほど信頼が寄せられています。	ボランティアが多く訪問することから、市の推進するシニアサポーター事業への受入登録を済ませ、活動がますます盛んになることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束よりスピーチロックが気になり常にミーティング時に話し合い改善しています	玄関はオープンですがユニットは電子板ロックです。自虐行為気味の行動から転倒が続く利用者の家族から「(以前の施設でもあったので)拘束してほしい」と要望されましたが、「職員の見守り不足」と至らなさを認めたくえて環境を高めるなどは正し「拘束はしない」を貫いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に体の観察をしています また本人の行動・言動に注意を払い早期発見できるように職員同士情報を共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い権利擁護について理解しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を基に口頭にて説明を行い、疑問点や要望はその場でお伺いしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に定期的に手紙を送り日々の様子などお伝えし、来所時も家族が意見などを申しやすいように配慮しています	「行事参加を介して来所頻度を増やそう」との方針をもって声をかけ、案内も早めに送っています。また「演奏してもらいたい」「～を作ってほしい」と何かと巻き込むことで、一人の利用者に10名近くの家族が集まった例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティング・研修を行い職員が働きやすい環境づくりと同時に一人一人の能力向上に努めています また個人面談では周囲からの意見も話自己覚知をうながしています	定期の個人面談を年1回おこない、シフトや人間関係の相談についても直接管理者に挙がっています。職員の手作りや、職員が支援して利用者が制作したものが溢れており、参画意欲の高さを受けとめることができました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の声を聴き業務に向上心が持てる環境整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修を通じて学んだ内容をミーティングで職員に伝え育成に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度のセクション会議を各施設内で行い意見交換をしています また他施設にも見学に行ったり情報交換しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人・ご家族に直接コミュニケーションを図りサービスの説明をさせて頂いています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護生活での大変さや問題点を家族と共に確認し情報をたくさん収集し共に考え信頼関係の構築に心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じアセスメントをし何が必要なのか理解するように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない所をお手伝いさせて頂くという気持ちで支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できるイベントを開催し家族との交流ができるようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや運動会に参加しています		「何か続けてもらいたい」と奨励し、例えば匂い袋をつくるのに夢中な人は他の利用者にも指南をはじめ、また職員が「おもてなしの心」とプリント包装して近隣の病院などに配るため「いくつ売れた？」との張り合いも生まれています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声を掛け合いオセロやトランプなどやっています また利用者様全員女性ということもあり裁縫を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人のところに訪問して暮らしの経過を確認しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを参考に利用者様の好まれるものを予測し職員が提案しています	手を動かしたり、話をする機会が豊富なためか意思疎通が明快な人が多く、新人職員にも「関わる時間をもつように」と指導しています。利用者の発語からネット検索で場所を特定して話材を上げようとする場面にも遭遇しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し理解に努めます 会話からも情報を得るようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人家族から情報を得ています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様・関係者を交えて希望・要望・意向を伺い意見やアイデアを反映しそれを基に作成しています 職員の意見も参考にしています	共同生活を通して刺激を受け、自分でご飯を食べるようになりと日々変化していく人もおり、速やかに家族意見も取り入れたプラン変更にも努めています。サービス担当者会議は家族にも呼びかけ、「一緒に、との姿勢を持っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の経過記録・排泄・入浴・食事・BTチェックを記録しています 気づいた点があれば連絡ノートに記入し情報交換に生かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスが行えるよう対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れなど豊かな暮らしにつながるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診希望の方は月2回受け他の方はかかりつけ医の受診を支援しています 利用者様の経過を主治医に伝えて適切な医療を受けられるように支援しています	協力医の交替があり往診は月1回から2回へと増えています。「気分転換として家族と外へ〜」「本人の安心のために〜」とかかりつけ医を継続する人が3名おり、記録は「入院かも…」というケースのみ持参してもらっています。	かかりつけ医を継続している人については今後の看取り往診にやや心配があるため、顔つなぎをしておくことを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1非常勤の看護師がいます 利用者様の状態の変化を報告しながら意見などを聞いています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行っています 面会などで病院関係者と情報交換しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そうなった場合は主治医や家族に話し合いの確認をとっていきたいと思います	新採研修の内容把握はなく不明なものの、現存職員は法人本部の年間研修で本件を学んでいますが、開所から現在まで実績はありません。家族の意向があれば添いたいとしています、未だ態勢は整っていません。	次の2点の確認や検討を期待します。①新採研修ではどこまでの内容をおこなっているか ②緊急時対応、看取り方針と合意の書面をどうするのか
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急手当等は施設研修などで実践を行いながら身に付けていきたいです		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使い方や緊急時の声の出し方など利用者様と練習しています	法定訓練は1回を終え、2回目は来2月を予定しています。レクリエーションの合間に「今、地震が起きたらどうしようか」「あそこから火が出たらどうする」と、質問訓練が遊び心満載で随時おこなわれています。	次の2点を期待します。①消防署員の立ち合いの下、正しい手順を見直したうえでどの職員も同じことができるようになる ②夜間想定をおこなう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の想いを忘れず人生の先輩として礼儀や言葉遣いを気を付ける様心掛けています	呼称はその人に応じています。「～ちゃん」付けの人は家族もそう呼ぶことから自然とそうなり、居室ドアにもその呼称で職員のエールが贈られていました。一部声の調子や抑揚に難を残す職員もいるため、今後の課題としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ選択肢の増減をもって対応しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし本人らしさを尊重しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性らしさを忘れないよう支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	育てている野菜で何が出来るなど利用者様と話し合いながら一緒に準備や片づけなどを行っています	惣菜はレトルトが7月から導入されていますが、ご飯と汁物は職員が調理しています。レトルト＝病院食的な印象は否めませんが、利用者は「皮も食べて」「〇〇(TV出演者)」はお洒落だね」と談笑しながら完食していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など毎回チェックし観察しています 食事形態もその方に合わせ提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身では困難な方はこちらで支援しています うまくうがい出来る様声掛けしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解し声掛けや介助見守りを行っています 自力排便が困難な方もトイレに座ることにより排便できたりします	フロアに2箇所あるトイレは手すり設置もありますが、便座の向きは同タイプです。消耗品は居室に置くと間に合わないこともあるため、トイレ内に置いていますが、ネームはつけず、どれが誰のものかを職員間で周知しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂る・よく噛んで食べるなどの声掛けや便秘解消の体操や食事メニューの工夫をしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3の入浴は体調や気分に応じ支援しています またシャワー浴の場合は同時に足浴するなど配慮しています	可動式で3面から脚を入れることができる造りですが、現在は固定使用とし1面からのみです。拒否する人はなく、週2日のめやすにも特段の注文もでていません。ただ愉しみとして、曜日でお風呂セットを用意して待つ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態や体調に応じて随時休息してもらえる環境にあります		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用途・用量については、職員に情報・説明を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物畳みはやっていただいています また雑巾を渡すと自身の居室を掃除されます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者様の体調また職員の配置に合わせ散歩や外食などを行っています	近場の観光スポットへの外食も兼ねたドライブ外出は年に3~4度ほどあり、元気な利用者は個別で7~8回に及ぶこともあります。神社の子ども相撲、地域の運動会やお祭りのほか、屋台ラーメン・寿司職人の来訪や大衆演劇観賞といったサプライズ的なものもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心する利用者様もいます 本人の管理で所持しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に電話をかけたい」など希望される利用者様の対応をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の写真や利用者様作成の展示物など飾り付けています	手にとってしまいそうなリアルな葡萄や利用者手縫いのパッチワーク、正月を迎えるクラフト門松とウキウキとした気分になる作品群とともに運動会をはじめとする行事写真がならび、日々の安寧が伝わります。	5Sの行き届いた共用空間ですが、1点清掃用具の置き場所が気になりました。感染症も鑑み検討することを期待します。また、頭がついたもので大きな心配はないものの画紙を多用されている点も改めての見直しをお願いします。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクの内容により席を移動したり本人の希望を含め居場所づくりを考えています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせ居室をご用意させて頂いています 植木を置いたりされる方もいます	利用者本人の表札の下に居室担当の名前も添えられ、家族にも分かりやすくなっています。備え付けのクローゼットはありますが好みの収納家具を持ち込み、亡くなった伴侶や近年誕生したひ孫の写真を飾る居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の導線に邪魔になるようなものを置かない工夫をしています 危険物は目の届かない所に保管しています		